# 卒 業 お め で と う ！

## アトゥモロック

会員として初めて現地訪問をした 2001 年、アトモロックの卒業式に出席した。その時の感激は今年も変わらなかった。

澄んだ山の空気の中に響く、ベルトの鈴の音色。多彩な民族衣装を晴れやかに着た卒業生。

アトモロックでは、男子も女子も、2枚のマロンを折り畳んで、両肩に襷がけにし、鈴のついたベルトをする。

今年の卒業生は、男子5名、女子8名。いつもは、優等や様々な賞は女子がもらうのが、今年は男子が3位までを占め、他の賞もほとんど男子が受賞した。

驚いたのは、卒業予定の女子奨学生が2月に結婚して退学したとのことだった。1ヶ月待って、あるいは、結婚しても学校へ来て、卒業というのは考えられなかったのか。

ともあれ卒業生は、喜びの笑顔を見せたり、感激の涙を流したり。式後は、祝いの昼食が卒業生と親とに用意されていた。2001 年にはなかったことだ。

エルナ先生は出産休暇中で、ディダン先生、レスリー先生の 2 人だけだったが、式進行を滞りなく行い、年々着実に学校運営が進歩しているのを感じた。

## ミアソン

卒業式は午後からというCMIP 事務所からの連絡で、正午にミアソンへ着いたら、何と卒業式は午前中に行われて終ったところだった。山の公立ハイスクールの卒業式はどのように行われるのかと楽しみにしていたので、愕然とし、落胆し、そしてまた恥ずかしくもあったが、校長先生以下スタッフの方々は歓待して下さり、お祝いの昼食を一緒に頂いた。HANDS が奨学生をこの学校に在籍させていることに校長先生が感謝の意を表された。卒業生は 50 名で奨学生は 12 名。奨学生が 5 分の一以上も占めており、しかも今年は優等で卒業したのが、奨学生なので、人数の点だけでなく、学校の質を高めているという点でも貢献しているのは明らかだ。

寮に行って、再度の昼食後、感謝の集まりがあり、卒業生は一人一人前に出てスピーチをした。CMIP と HANDS に、そして特に支援者に感謝していると、皆が涙声で語った。

カレッジ奨学生に決定したのは 6 名。卒業は終わりであり、始まり。これからまたそれぞれの新しい生活が始まる。

**受　賞**

学業成績 ： Analen(最優秀賞)、 Sherlyn(6 番)

生徒会活動 ： Armando(リーダーシップ賞)

## ブラクール

前号のジュネフェの訪問記にもあるように、ブラクールでは民族衣装を着ている人が少ない。前々からマロンだけは、絶えてほしくないと願っていたので、会員からのブラクールへの卒業祝い金で卒業生全員にマロンを贈った。

小学校卒業は、14 名、ハイスクール 8 名。新しいマロンを女子はスカートとして、男子は、襷がけにして式に臨んだ。

男子にもマロンを贈ったのは、母親か姉妹にあげれば良いと思ったからだが、男子はそのマロンを襷がけにした。前回出席した時は、男子はマロンを着用していなかったので、ブラクールでは、そういう習慣はないのだと思ったが、持っていないから、していなかったのだとわかった。やはりマロンを全員に贈って良かったと思った。